

予 算 要 求 資 料

令和5年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：農業費 目：農業振興費

事業名 農業の気候変動適応プロジェクト事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 農政課 農業研究推進係 電話番号：058-272-1111(内4027)

E-mail：c11411@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 8,245 千円 (前年度予算額： 9,950 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	9,950	0	0	0	0	0	0	0	9,950
要求額	8,245	0	0	0	0	0	0	0	8,245
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

地球温暖化の進行に伴い、平均気温の上昇だけでなく、真夏日・熱帯夜、局所的豪雨、突風の増加などの気象変動が顕在化している。農業では、気象変動による異常気象の影響を大きく受け、高温障害などが頻発し、経営が不安定となっている。

こうした中、岐阜県地球温暖化実行計画（区域施策編）においては、温暖化の影響への「適応」を進めることとしており、温暖化に対応する技術開発が求められている。

(2) 事業内容

気候変動により発生が予測、又は現れ始めている生育障害や病虫害被害を回避する栽培技術、及び気温上昇により栽培可能となる新品目等の研究開発。

(3) 県負担・補助率の考え方

本県に特化した品目や技術については、本県で研究開発する必要があるため、県で負担する。

(4) 類似事業の有無

県として戦略的に取り組むべき研究課題ごとにプロジェクト事業を立ち上げている。

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	940	調査研究に関わる現地調査、研究会等への移動経費、費用弁償
需用費	5,141	調査研究のための消耗品費、燃料費、光熱水費、修繕費
役員費	68	通信運搬費等
委託料	1,670	共同研究機関に研究を委託する費用
備品購入費	370	調査研究のための備品購入費
その他	56	調査研究にかかる使用料、負担金
合計	8,245	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

「ぎふ農業・農村基本計画」(R3～R7)では4つの柱「ぎふ農業・農村を支える人材育成」、「安心して身近な『ぎふの食』づくり」、「ぎふ農畜水産物のブランド展開」、「地域資源を活かした農村づくり」を定めている。これに基づく重点施策に「ブランド展開を支える新品目の創出と生産流通技術の開発」が位置付けられている。

(2) 国・他県の状況

気候変動に対し、国においても農林水産分野では、温室効果ガスの排出削減と吸収による緩和策と、その影響の回避、軽減、利用による適応策が一体的に推進されている。

(3) 後年度の財政負担

技術開発には5年間程度必要であるため、本事業は令和8年度まで実施する。

(4) 事業主体及びその妥当性

本県に特化した品目や技術については、本県で研究開発する必要がある。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

県研究機関が持つシーズと研究資源の総力を結集し、生産者や大学等と連携し、令和8年度までに開発技術の実用化・普及定着を図る。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R3)	R3年度 実績	R4年度 目標	R5年度 目標	終期目標 (R8)	達成率
①技術移転の推進	-	/	0	0	6	0%
②						

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	
令和3年度	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %
令和4年度	令和6年度当初予算にて追加 指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・ 事業の必要性 (社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) <small>3 : 増加している 2 : 横ばい 1 : 減少している 0 : ほとんどない</small></p>	
(評価) 2	<p>農林産業では、気象変動による異常気象の影響を大きく受け、高温障害や風水雪被害が頻発し、経営が不安定となっており、気象変動に対応した技術開発が求められている。</p> <p>また、岐阜県地球温暖化実行計画においては温暖化の影響への「適応」を進めることとしており、本事業の必要性は高い。</p>
<p>・ 事業の有効性 (指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) <small>3 : 期待以上の成果あり 2 : 期待どおりの成果あり 1 : 期待どおりの成果が得られていない 0 : ほとんど成果が得られていない</small></p>	
(評価) 2	<p>令和4年度から5ヵ年計画で実施する事業であり、事業終了までに6個の革新的技術を実用化することを見込んでいる。プロジェクト毎に生産者等への収益性を考慮し、且つ実用化を見越した研究を進めていることから本事業の有効性は高い。</p>
<p>・ 事業の効率性 (事業の実施方法の効率化は図られているか) <small>2 : 上がっている 1 : 横ばい 0 : 下がっている</small></p>	
(評価) 1	<p>試験計画や進捗状況、研究成果について検討を図るとともに、必要に応じて、関係機関（生産者団体、大学等）と連携を図ることで、技術確立の効率化に努めている。</p>

(今後の課題)

<p>・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 地球温暖化に起因すると考えられる気候変動の影響は、農業の現場において、高温障害による農作物の品質の低下や生産量の低下を起し、農業経営を不安定にする要因となっている。</p>
--

(次年度の方向性)

<p>・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 農業において特に顕在化している高温に着目し、短期的または中長期的な視点で適応する技術を開発し、強い産地づくりを推進する。</p>

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課</p>	
<p>組み合わせる理由 や期待する効果 など</p>	